

都市再生整備計画 事後評価シート  
大富士中学校区周辺地区

平成31年3月

静岡県富士宮市

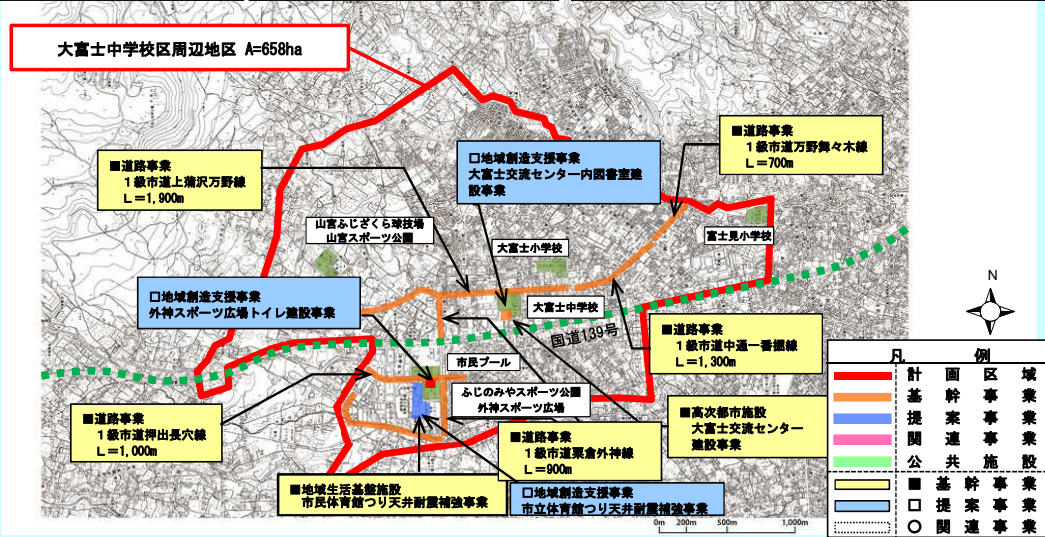
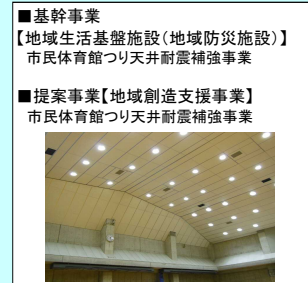
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	富士宮市		地区名	大富士中学校区周辺地区			面積	658ha			
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	869百万円		国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
			基幹事業	【道路】1級市道粟倉外神線、1級市道押出長穴線、1級市道上蒲沢万野線、1級市道中通一番堀線、1級市道万野舞々木線【地域生活基盤施設(地域防災施設)】市民体育館つり天井耐震補強事業 【高次都市施設(地域交流センター)】大富士交流センター建設事業										
	当初計画から削除した事業		事業名											
			提案事業	【地域創造支援事業】大富士交流センター内図書室建設事業、市民体育館つり天井耐震補強事業、外神スポーツ広場トイレ建設事業										
	新たに追加した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			基幹事業	【道路】一般市道外神東町8号線			他事業計画との調整により削除			影響なし				
交付期間の変更		当初	平成26年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
		変更	-		-		-							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	公民館の利用者数	人/年	3,547	H25	15,500	H30	モニタリング	評価値	49,392	○	あり なし	大富士交流センター、図書室の建設により地域のサークル活動や生産学習の場が確保され、地域の交流が促進したため、利用者数の増加に寄与したものと考えられる。	-
	指標2	道路環境の安全性満足度	%	28	H25	39	H30	-	30	△	あり なし	● 既存道路空間の再編による整備であったため、ポストコーン、グリーンベルト等の設置により歩道空間の確保を行ったことで、歩行者の安全性満足度は微増したが、車両空間が一部狭くなったことで、市民の十分な満足度が得られなかったと考えられる。	-	
	指標3	防災対策への安心感	%	20	H25	32	H30	-	37	○	あり なし	大富士交流センターの建設、市民体育館のつり天井耐震補強、外神スポーツ広場トイレ建設により、防災機能が拡充したため、満足度の向上に寄与したものと考えられる。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	地区内の年間平均事故件数(事業開始前H22～H25間の年間平均事故件数、事業開始後H26～H29間の年間平均事故件数)	件/年	226	H22～H25	/	/	-	186	/	/	本事業で整備した道路が一定の効果を発揮したことで安全性が向上し、事故件数が減少したと考えられる。	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4)定性的な効果発現状況	<p>・市民体育館つり天井耐震補強事業にて、耐震補強と合わせて、第一、第二体育室、武道場の照明をLED化し、空調設備の整備を行ったことにより、利用者からは「環境もよくなり、使いやすくなった」と評価されている。</p> <p>・大富士交流センターは、災害時における地区担当班(市職員の防災組織)の地区本部となり、地区内の情報収集や調整拠点としての機能を発揮している。</p>													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等							
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし							
	住民参加プロセス	市民交流施設の建設について、平成23年度末に地域住民主導の大富士中学校区公民館建設検討委員会が設置され、平成25年11月までに全8回の委員会が実施された。本地区では、事業実施前から住民参加が行われていた。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も、魅力ある講座や世代間交流ができる講座、多世代や外国人を受け入れられるようなイベントなどの継続的な実施により、地域のコミュニケーションづくりを継続していく。							
	持続的なまちづくり体制の構築	大富士交流センター開館後、「大富士交流センターまつり」を毎年10月に開催し、地域住民の方による模擬店の出店、舞台や展示発表等のイベントを実施している。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 「大富士交流センターまつり」を今後も継続して実施し、地区住民の交流を活性化させていく。							

## 様式2-2 地区の概要

### 大富士中学校区周辺地区(静岡県富士宮市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標:活気にあふれ、災害に強い安心・安全に暮らせるまちづくり	<b>【指標1】公民館の利用者数</b> 単位:人/年	3,547 H24	15,500 H30	49,392 H29
目標1・豊かな心をはぐむ学びの場と安心して過ごせる憩いの場を整備し、市民活動の活性化と地域コミュニティの強化を目指す。	<b>【指標2】道路環境の安全性満足度</b> 単位:%	28 H25	39 H30	30 H30
目標2・安全で快適な道路環境を整備し、歩行者の安全性向上と地域内移動の円滑化を目指す。	<b>【指標3】防災対策への安心感</b> 単位:%	20 H25	32 H30	37 H30
目標3・身近な防災拠点の整備・充実を図り、災害に強いまちづくりを推進する。	<b>【その他の数値指標1】地区内の年間平均事故件数(事業開始前H22~H25間の年間平均事故件数、事業開始後H26~H29間の年間平均事故件数)</b> 単位:件	226 H22~H25		186 H26~H29



まちの課題の変化

計画策定時において、道路の整備により、道路環境の安全性満足度の向上を目標としていたが、市民満足度を調査した結果、歩行者の安全性満足度が依然として低い水準であることが判明した。しかし、既存道路空間を再編した整備が、交通事故の減少に寄与していると考えられることから、今後も歩行者の安全性と満足度を更に向上させていくことが必要と考えられる。また、大富士中学校区周辺は近年、外国人が多く居住することから、多世代のみならず、多文化を含めた地域交流の更なる活性化及び防災体制の構築が必要と考えられる。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・今後も交通事故の減少をさせていくため、横断歩道付近の歩行者だまりにポストコーンを設置するなど、歩行者目線の道路整備を継続的に行い、歩行者と車両の接触機会を減少させ、運転手のヒヤリハットの機会の減少を図る必要があることから、交通安全に対する勉強会や、危険箇所の情報共有等の地区活動の継続により、市民の安全性と満足度を引き続き向上させていく。  
 ・大富士交流センターの建設により、講座開催等の場として、多機能の会議室等が複数設置され、本地区に交流拠点の場ができたことから、施設の活用方法を運営面から検討し、多世代のみならず、多文化を含めた更なる地域交流の場としての利活用を推進し、コミュニティ活動の増進を目指す。  
 また、防災上の施設利活用として、外国人向けの防災講座を継続して行い、今後は多くの外国人が防災活動に参加できる体制を整えていく。